

〈彙報〉

平成十三年度 日本語日本文学科活動報告

日本語日本文学科芸能鑑賞―歌舞伎鑑賞教室―

日時 平成十三年六月六日(水)
場所 大阪厚生年金会館大ホール
演目 ①解説 歌舞伎のみかた

②鳴神

対象 日本語日本文学科一・二年生全員

日本語日本文学科臨地学習―高野山方面―

日時 平成十三年十一月八日(木)
行程 J R天王寺駅―高野山―遍照光院(昼食)―奥の院
―金剛峯寺―J R天王寺駅解散
対象 日本語日本文学科一・二年生全員

今年度、本学において次の学会が開催された。

◆古事記学会全国大会◆

日時 六月九日(土)・十日(日)・十一日(月)

場所 相愛女子短期大学南港講堂

公開講演会(第一日)

- 一、古事記の皇妃 神戸女子大学教授 鈴鹿千代乃
- 二、ふることぶみ 神戸松蔭女子学院大学教授 浅見 徹

研究発表会(第二日)

- 一、黄泉比良坂と伊賦夜坂―本文における注記の在り方から― 大阪市立大学大学院生 植田 麦
- 二、王者の身体と樹木 学習院大学大学院生 長崎 歌織
- 三、崩年干支より観た武烈記の位置 板垣 徹
- 四、日本書紀に見える「尊」「命」の考察 大阪大学大学院生 朴 美賢
- 五、石之日売命の物語的意味―仁徳記の構想― 中京大学 大脇由紀子
- 六、『古事記』の借音字表記における表記意識 九州女子大学 奥田 俊博
- 七、鳥の語り―性愛と死と― 國學院大學 多田 元

臨地踏査(第三日)

太子伝説の地を行く―四天王寺から当麻寺まで―

尚、九日午後十二時より十六時三十分まで、本学貴重資料室において古事記学会用の「春曙文庫」の展観を行った。

◆第二十一回阪神近代文学会夏季大会◆

日時 七月十四日(土)

場所 学生厚生施設棟三階「小ホール」

研究発表

一、大岡 昇平「武蔵野夫人」論―無疵でいられぬ女たち―

関西学院大学大学院 尾添 陽平

二、明治後期鏡花文学における自然と意匠の背景

金蘭短期大学非常勤講師 三品 理絵

三、第二次世界大戦下、上海における亡命ユダヤ人と、日

本近代文学との出会い方 甲南女子大学 大橋 毅彦

尚、当日午後十二時より十六時三十分まで、本学貴重資料室において阪神近代文学会用の「春曙文庫」の展観を行った。